

2017年8月4日

## 博報堂、未来の可能性をデザインする 「FUTURE+DESIGN」活動開始

URL : <https://futuredesign-lab.jp/>

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）は、デザインの力で見えない可能性を「カタチ」にする活動「FUTURE+DESIGN（フューチャー+デザイン）」を開始いたしましたのでお知らせします。

## FUTURE+DESIGN

画一的な正解を失い、多様な生き方を模索する今の時代は、「豊かさや幸せ、生きる意味の再定義」が求められている時代でもあります。だからこそ、我々は「既に顕在化している解決すべき課題」ではなく、これからの生活の「まだ見ぬ新しい豊かさや幸せの可能性」と向き合い、暮らしや社会を豊かにする新たな価値を世の中に提示していく必要があると考えました。

「FUTURE+DESIGN」は、まだ見ぬ新しい豊かさや幸せの可能性“Life Possibility”をテーマに掲げ、Life Possibility についての研究成果の発表や、Life Possibility を基点とした企業とのアイデア共創プログラムなどの様々な活動を展開していきます。また、WEB サイトを通じて、Life Possibility にまつわる情報や具体活動などを発信してまいります。

### ■FUTURE+DESIGN 概要

プロジェクトリーダー：永井一史（HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長）

略歴：1985年多摩美術大学美術学部卒業後、博報堂に入社。2003年、デザインによるブランディングの会社 HAKUHODO DESIGN を設立。様々な企業・商品や行政施策のブランディング、VI デザイン、プロジェクトデザインを手掛けている。医療・ヘルスケアや地方創生などソーシャル領域での活動も多い。2015年から東京都「東京ブランド」クリエイティブディレクター、グッドデザイン賞審査委員長を務める。

クリエイター・オブ・ザ・イヤー、ADC 賞グランプリ、毎日デザイン賞など国内外受賞歴多数。著書・共著書に『幸せに向かうデザイン』、『エネルギー問題に効くデザイン』、『経営はデザインそのものである』、『博報堂デザインのブランディング』など。

メンバー：大平尚明（第2クリエイティブ局）

近藤秀典（インタラクティブデザイン局）

所洋介（MD ビジネスインキュベーション局）

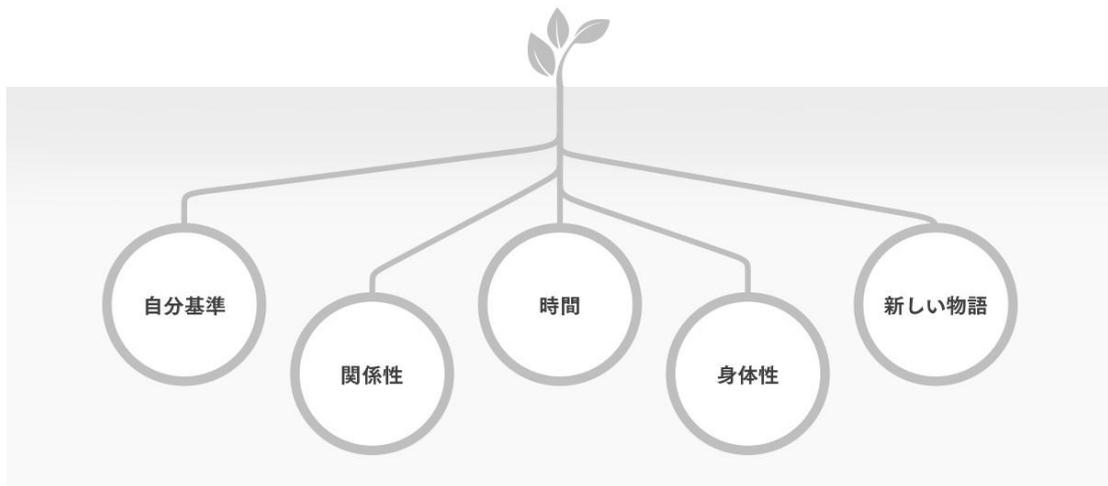
松山英一（MD ビジネスインキュベーション局）

竹本友美（MD ビジネスインキュベーション局／MD・DMU 事業統括局）

【ご参考】

## Life Possibility について

Life Possibility とは、まだ目に見えていない豊かさや幸せの可能性です。Life Possibility を考える立脚点として、「自分基準」「関係性」「時間」「身体性」「新しい物語」という5つの根を設定しました。まだ目に見えていない、豊かさや幸せの可能性を考えるための「根」に支えられた「樹」が、やがて社会に幸せの「実」を結ぶことを信じています。



### 自分基準

あらゆる情報が瞬時に手に入る時代。それはとても便利で、現代文明の素晴らしい側面といえます。しかし、それは一方で、目には見えないけれど空気のように存在する“世間の基準”によって、自分自身を無意識のうちに規定してしまうこととも背中合わせです。

自分の思いを自覚し、心を開放させて生きるためには、一旦立ち止まって自己と対話し、自分自身を知ることが大切なのかもしれません。誰かの決めた幸せの基準をなぞるのではなく、“自分基準”を知るところに、これからの幸せや豊かさの可能性があるのではないのでしょうか。

### 関係性

私たちを取り巻く物事、事象との“関係性”は、有史以来、社会情勢や移りゆく価値観との間でバランスを取りながら変わり続けてきました。その時代ごとに幸福を求めてきた人類の歴史は、“関係性のデザイン”の蓄積ともいえます。

関係性への意識から幸福感を得ることができるのは、人間だけなのではないのでしょうか。そして、孤独や格差、環境問題など、さまざまな資本主義の歪みが露わになってきた今、改めて、“関係性”という切り口から自分を、世界を、見渡してみることで、新たな幸福の萌芽が見えてくるのではないのでしょうか。

### 時間

日々刻々と流れていく“時間”は、誰もが普遍的なものと思いがちです。しかし、移動や情報の概念が変わり、寿命が大きく伸びたことで、時間の捉え方にも新しい可能性が広がってきました。一方で、近代社会の成立が、本来は多様性に富んでいた“時間”のあり方を画一化してしまった

ともいえます。

特に高齢化が進み、社会としても成熟期を迎えて久しい日本は、これまでと異なる有機的な時間軸を手に入れるべき時期なのかもしれません。速さ、若さ、新しさに基づく価値観がいたるところで転換を迎えつつある今、その先にはどんな世界が広がっていくのでしょうか。

### 身体性

インターネットやテクノロジーの発展によって、私たちの身体の機能は大きく広がり始めています。その広がりが、バーチャル空間にまで及ぼうとしているなか、私たちの”身体”は、どこに<在る>のでしょうか。時とともに老いたり朽ちたりする物質的な身体は、テクノロジーの進化とどのように付き合っていくべきなのでしょう。肉体と五感という感覚をもつ私たちの“身体”について考えるところから、これからの幸せのかたちが見えてくるのではないのでしょうか。

### 新しい物語

神話、宗教、法、国家……、人類は、いつの時代も何らかの“物語”を生み出してきました。「科学技術の発展」や「経済成長」もまた、近代をドライブしてきたひとつの物語だったといえます。それらの物語は、国家や民族、死生観、自然、テクノロジーの未来像にいたるまで、今も私たちの人生を支える指針として、生活のあらゆるところに根付いています。その一方で、社会の多様化が進み、「大きな物語」の終焉が叫ばれて数十年。人工知能が登場し、寿命が100歳まで伸び、あらゆる価値観が揺らぐなかで、これからの私たちは、どんな“物語”を指針として生きていけばよいのでしょうか。

以上